

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら上値を追う展開か

[9月26日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月19日～9月22日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	143.03	145.90(22)	142.65(19)	145.78	+2.86
ユーロ・ドル	1.0012	1.0051(20)	0.9809(22)	0.9834	-0.0182
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,153.83	-413.82	日本10年債利回り	0.241	-0.016
ダウ平均株価	30,183.78	-638.64	米10年債利回り	3.530	+0.081

<来週の主要経済統計等>

- 26日 独9月ifo景況感指数
経済協力開発機構(OECD)の経済見通し
- 27日 米8月耐久財受注速報値
米7月住宅価格指数、米7月S&Pケースシラー住宅価格指数
米9月消費者信頼感指数、米8月新築住宅販売件数
故安倍元首相の国葬(日本武道館)
- 28日 豪8月小売売上高
日本7月景気動向指数改定値
- 29日 独9月消費者物価指数速報値
米第2四半期GDP確報値、米新規失業保険申請件数
- 30日 日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率
日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数
中国9月製造業購買担当景気指数
中国9月財新製造業購買担当景気指数
英第2四半期GDP確報値
スイス8月小売売上高
スイス9月KOF先行指数
独9月雇用統計
ユーロ圏8月雇用統計
ユーロ圏9月消費者物価指数速報値
米8月個人消費支出(PCE)デフレーター、米8月個人所得・支出
米9月シカゴ購買部協会景気指数
米9月ミシガン大消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】円が売られやすい地合いが続く中、政府や日銀の口先介入やレートチェックで、ドル円は高値から一時的に軟化する可能性はある。ただ、円売りの流れは継続して、ドル円はもみ合い一巡後には一段高となるとした。

【FOMCでは0.75%の利上げ】

20～21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、大方の市場予想の通り、0.75%の利上げが決定した。3会合連続での0.75%の利上げとなる。これで政策金利の誘導目標は3.00～3.25%となった。

米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は記者会見で、「物価の安定を取り戻すために、しばらくの間は引き締め的な金融政策を維持する必要がある」「経済は物価の安定がなくては機能しない」「痛みなくインフレを退治する方法はない」「住宅市場は調整局面を通過する必要がある」「労働市場は幾分軟化する可能性が非常に高

い]などと述べた。

F O M Cメンバーによる政策金利の見通しの中央値は2 0 2 2年末で4. 3 7 5（前回6月3. 3 7 5%）となり、年内の残り2回の会合で、あと1. 2 5%の利上げが必要となるとみられる。1 1月に0. 7 5%、1 2月に0. 5 0%の追加利上げが行われるとの見通しが広がっている。

政策金利の見通し（中央値）は、2 0 2 3年末に4. 6 2 5%（前回3. 8 7 5%）、2 0 2 4年末に3. 8 7 5%（同3. 3 7 5%）、2 0 2 5年末に2. 8 7 5%となっている。なお、F O M Cメンバーの過半数が2 0 2 3年末の政策金利を4. 5%以上と予想している。

米第4四半期の実質国内総生産（G D P）見通し（中央値）は、+ 0. 2%となっており、前回の+ 1. 7%から大きく下方修正された。2 0 2 3年のG D P予想は+ 1. 2%で、こちらも前回の+ 1. 7%から下方修正された。インフレ率は2 0 2 2年が4. 5%で、前回の4. 3%から上方修正された。2 0 2 3年は3. 1%となり、こちらも前回の2. 7%から上方修正されている。

2 1～2 2日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続すると表明している。米国をはじめ、各国の中銀が利上げに動く中、日銀の緩和姿勢の継続が改めて示された。この発表を受けて、ドル円は一時1 4 5円台半ば近くまで上昇したものの、買いが一巡すると1 4 4円台に軟化している。

日銀の黒田総裁は2 2日の記者会見で、「必要があれば躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる」「企業の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努める」「円安、政府と緊密に連携、影響を十分注視」「円安、一方的な動きで投機的な要因」「当面は金利を引き上げない」「来年度以降のコアC P Iは2%を下回ると予想」「将来的な政策指針の変更ありうるが、当面は経済回復支援」と述べた。

また、「マイナス金利、現在大きな副作用や問題を引き起こしていない」「欧州がマイナス金利をやめても日本がやめる必要はない」「F R Bの利上げ、米インフレが極めて高いため行われている」とも述べた。諸外国の事情がどうであれ、日銀は緩和姿勢を当面継続するとの意向を示した。

さらに「F R Bの利上げは世界中に様々な影響与える可能性」「米経済減速、日本経済見通し引き下げの影響は考えていない」「為替相場、ドル独歩高であると諸外国の人も言っている」「一部の資源国除けば、ほとんどの通貨が対ドルで下落している」などと述べている。

黒田総裁の一連の発言を受けて、ドル円は1 4 5円手前から、1 4 5円台後半までドル高円安が進行している。

F R Bによる積極的な利上げ姿勢はドル高を支える要因となる。日米の金融当局によるスタンスの違いからドル円は堅調な推移が見込まれる。日銀による口先介入などにより、一時的に伸び悩む場面もありそうだが、ドルと比べて円は相対的に弱い地合いが継続するとみられる。このため、ドル円はもみ合いながら上値を迫る展開となりそう。ドル円の目先の予想レンジは、1 4 2. 0 0～1 5 0. 0 0円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、2 6日に経済協力開発機構（O E C D）の経済見通し、2 7日に米8月耐久財受注速報値、米7月住宅価格指数、米7月S & Pケースシラー住宅価格指数、米9月消費者信頼感指数、米8月新築住宅販売件数、2 8日に日本7月景気動向指数改定値、2 9日に米第2四半期G D P確報値、米新規失業保険申請件数、3 0日に日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率、日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数、米8月個人消費支出（P C E）デフレーター、米8月個人所得・支出、米9月シカゴ購買部協会景気指数、米9月ミシガン大消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは軟調な推移か】

ユーロドルは1ユーロ=1ドル（パリティ）近辺でもみ合いが続いた。その後はFOMCでタカ派的な結果になるとの観測から、ドル買いの動きに傾き、さらに実際のFOMCで市場の想定以上にタカ派的な内容となったことで、ユーロ売りドル買いが進んだ。ユーロドルは0.98台前半まで下落している。

ユーロ圏ではロシアからの天然ガス供給がストップしており、エネルギー供給への懸念が高まっているほか、インフレ率の高止まりが続いて、景気後退が警戒されている。こうした中、FRBによる積極的な利上げ姿勢を背景にユーロドルは軟調な推移が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9600～1.0100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、26日に独9月IFO景況感指数、28日に豪8月小売売上高、29日に独9月消費者物価指数速報値、30日に中国9月製造業購買担当景気指数、中国9月財新製造業購買担当景気指数、英第2四半期GDP確報値、スイス8月小売売上高、スイス9月KOF先行指数、独9月雇用統計、ユーロ圏8月雇用統計、ユーロ圏9月消費者物価指数速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。